

意見陳述申込書

天塩川流域委員会 御中

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し上げます。

平成17年

3月21日

1 意見陳述申込者

氏名

年齢 37歳

性別 男

旭川市

意見

流域委員会の皆様、今回の意見陳述の場を提供して頂きありがとうございます。
天塩川との関わりで生涯学習の場としていますが、これは私の住む上川管内の河川トータルで見ても天塩川は他の河川とはちがう特色を持ち、学ぶことが多い河川であることから関心をもって天塩川を学習の場としています。
生涯学習といっても、私たち人間以外の生き物、自然界トータルのことになりますので、その中で北海道の文化のひとつでもある、サケのことに関して聞いて頂きたいと思います。

私は旭川市内の石狩川河川沿いに住んでいます。ですから、川に行くには目と鼻の先です。

そんな目の前に川があるのに、時間や経費を掛けて、何故この天塩川を生涯学習の場としているか、ぜひ聞いて頂きたいです。

まず、旭川の石狩川と天塩川を比較します。

天塩川流域にお住まいの方には、ごく当然の事のひとつとして、秋になるとサケが海から上って来るといった自然しくみがあります。

これは、海と川との関わり、また森林と川との関わり、まだまだ説明できないほどの自然界との関わりがあると素人の僕にも解ります。

ちなみに、旭川ではどうかというと、サケが海から上ってきません、厳密には昨年は1匹だけ、それもメスでたまごを産まず死んだのが確認されました。

石狩川ではサケ放流はしていますが、繁殖は確認されていない河川です。

サケが川にいる期間は、皆さんも知っていると思いますが、秋に海から上ってきてたまごを産み、成長して海に降ります、降りる時期は春なので、川にサケのいない時期は夏だけです。

そして、私が知って頂きたいのはサケの仲間ヤマベ（サクラマス）という魚の事です。

この魚は川にいるときはヤマベといわれる魚でサケと同様、海で育ちサクラマスという名前になります。

このサクラマスは海で捕獲され食卓に出されればトキシラズと同等のサケです。

サクラマスというサケは春に海から上ってきて秋に卵を産みます、成長して海に降りるのは春ではなくて殆どのサクラマスが1年川で育ってから海におりるので、サクラマスのいない時期はありません、ちなみに川にいるときはヤマベと呼びます。これは、何を言いたいかというと、サクラマスが上る河川は1年をとおして環境が良くなければいけません。

この1年をとおして環境が良くなければと簡単に言いますが、これにはサクラマス（ヤマベ）が成長する段階で小さな時に川の中でエサを取ったりしますが、それには川の中の小さな昆虫、少し大きくなると水辺に遊びに来る陸生昆虫などを食べたりします。

このような川の状態には水中や陸上の昆虫の育つ環境が整っていなければいけません。

その上で、どのくらいの魚の数を育てられる川なのか？ここが大事な部分です。

魚釣りをする方が「ヤマベが湧く川」といっている川があります、それはサンル川でダム案の川です。

サクラマスの上る川はあっても、育てる環境がなければ魚の数は減ります。

水辺には、どこでも虫はいるしと、考える方もいると思いますが、サンル川と同じ位の数のサクラマスが上ってきて産卵行動する環境はどこにあるのでしょうか？

素人がサクラマスの産卵行動を簡単に見られる河川は、他にありません。

この環境をいちど破壊すると、再生するのは無理です。

この様な、サケの育つ環境は私が発言しなくても皆さんご存じなのは承知ですが、旭川までサケが上れる環境になって魚道完成5年、旭川の石狩川ではサクラマスの確認は2002年に一度だけ1匹の確認がされただけで、その後確認はされていません。

復元させるため、市民団体が放流していますが、サクラマスの遡上は期待薄です。

旭川ではこのような現状です。

魚道が整備されたにしろ、ダム案で進めるとこのサクラマス（ヤマベ）はいなくなります。

これほど魅力ある川は上川管内、いや、北海道中をさがしても見つけだせません。

ぜひ、このことを良く考えて今後の河川整備に反映させて頂きたいと考えています。

最後に、「魚道を作ればサクラマスが遡上する」と安易な考えを検討して頂きたい、自分の娘が・孫が妊婦さんでしたら、あなたは妊婦さんに階段を上らせませんか？

再度ダム案について、もっと真剣に考えて頂きたいと思います。

よろしくお願いします。